

## KnTU Technical Official Report



第14回大磯ロングビーチ・ファミリートライアスロン大会

キッズ・スイム待機風景

### 自立とスポーツマンシップを養う大会でありたい 審判長 浅野 拓哉



キッズ・計測チップ配布風景

この大会は、大磯ロングビーチのプールオープン一週間前、オープン前の準備に忙しいなか会場をお貸しいただき、まだ誰も泳いでいないプールを真っ先に貸し切りで泳ぐことができるという、往年の芸能人水泳大会のような大会です。

また名前のとおり、ビギナー向けで家族全員が参加できる大会として、未就学児の「ちびっこ」から大人までのレースカテゴリーが組まれており、特にお子様の参加が大変多いのが特徴です。

お子様たちにはこの大会を通じて、「自立」と「スポーツマンシップ」を養っていただきたいことから、トランジションで

の設置準備から競技、バイクのピックアップまですべて自身で対応してもらうことを基本としています。そのためトランジションの外側のスペースを大きくとり、外から親御さんが見守れるスペースを確保したり、小さなお子様には TO (Technical Official テクニカルオフィシャル / 審判員) が親御さんに代わってフォローするよう気を配っています。

開催時期は、梅雨真っ只中で、ちょうど前線も活発化してきて前日・前々日から開催自体も心配されるヤキモキさせられる大会でした。当日は、気温 25.5℃水温 23.5℃、時々雨が混じるものの曇りで若干寒く感じる天候。朝から風は強く吹いており、午後には更に強風となったことから、最終レースカテゴリーの「一般の部」のバイクパートをレース直前に6周回から3周回に短縮しました。結果、バイクパートでトランジション近くの右カーブ急な下り坂で曲がりきれず軽傷を負う事故が数件発生しましたが、その他大きな怪我人も出ず無事大会を終了することができました。

また、キッズカテゴリーで、「前の選手がルールとなっているランの周回時に輪ゴムを取らなかったのに、自分はその場で取るよう指導された」という報告があり前の選出から聞き取りも行いました。TO として確実に公平となるレースを作れなかったことは大変残念なことで今後の課題として改善を図っていきますが、一方でその選手がルールに則りゴールしてくれたことはとてもうれしい出来事です。ルール違反をしてよい成績をとったところで何の意味もありません。今回関係する選手が「スポーツマンシップ」の大切さを感じとり、また他の選手にも伝播してくれるとうれしいです。

ぜひ、この大会から巣立った選手が立派に育ち、世界で活躍してもらえることを祈念いたします。